

OPENWAY FT Windows 版 (Ver3.3 Rev70) リリースノート

OPENWAY FT Windows 版 (Ver3.3 Rev70) では、前バージョン (Ver3.3 Rev60) に対して、以下の仕様変更・改善、および不具合対応を行っています。

仕様変更・改善

【1】 Windows vista 対応

Windows Vista Business/Enterprise/Ultimate Edition に正式対応いたしました。

Vista では、UAC 機能の影響により管理者権限での操作が必要である、セキュリティ強化の影響により ui0detect サービスを用いないとサービスからの画面ポップアップが制限されるなど、今までの手順では一部動作しないものがあります。使用手引書に記載がございますので Vista ご使用の際にはご一読ください。

【2】 ファイル識別情報の相手ホスト名一括変換機能の提供

OPENWAY FT 管理画面にて、相手ホスト名の一括変換が可能となりました。これにより、移行などの際に相手ホスト側のホスト名に変更が発生した場合、自ホスト側で対象のファイル識別の相手ホスト名を一度に変換できるようになりました。

【3】 ユーティリティのラージファイル対応

文字コード変換、ファイル圧縮・拡張ユーティリティのラージファイル対応を実施いたしました。

【4】 管理画面の仕様改善

OPENWAY FT 管理画面に、以下のような仕様改善を加えました。

- ・ ホスト一覧画面にリトライ回数が表示されるようになりました。
- ・ ホスト一覧画面の初期表示項目にポート番号、リカバリの有無、リトライ回数が追加されました。
- ・ Win ヘルプから Html ヘルプに、ヘルプ形式を変更いたしました。合わせて、コード変換のヘルプを追加しております。
- ・ 既に設定不要となった項目 [FTP クライアントの有無] の項目を表示しないように変更いたしました。
- ・ 保守ユーザ作成画面を削除いたしました。
- ・ コード変換ユーティリティで使用する項目情報ファイルを作成する画面を廃止し、ご指定のテキストエディタとヘルプファイルを起動するように変更いたしました。特に指定が

ない場合は、メモ帳が起動されます。

- ・ 自動リカバリ=OFF の際、手動にてリカバリ処理を起動した場合にも画面に「リカバリ中」と表示されるようになりました。
- ・ リカバリ処理実行時には、ホスト情報の変更が行えないように修正いたしました。
- ・ 管理画面、ログビューワの最大化時に画面サイズの保存をやめました。最大化後、画面を閉じると、次に起動する際には最大化前のサイズで表示されます。
- ・ 文字コード変換新オプション「-spac_f, -spac_pf, -szone_pf」の画面对応をしました。
- ・ 文字コード変換、レコード変換時には項目区切文字が使用できない原則を画面にも反映しました(今までは選択可能)。
- ・ 文字コード変換、WS 側改行コードの初期値変更に伴い、デフォルト値選択時には「-Ry=0d0a」が設定されるよう修正いたしました。

[5] OPENWAY FT 転送機能の改善 (設定値の増設)

Owftconfiguration.ini の設定値を増やしました。

設定値	説明
警告出力モード	今までエラーファイルに出力されていた警告メッセージを止め、通常ログのみの出力とすることができるようになりました。初期値は今までのおり、エラーファイルに出力されます。このモードにより、エラー検知時にエラーログをご使用される場合、警告メッセージによる更新を避けることができます。
リカバリ停止モード(自動リカバリ実行時)	自動リカバリ実行中に、(1)設定回数超過、(2)リカバリ停止依頼のいずれかの理由でリカバリ処理が停止した際、相手ホストの状態が ACTIVE/DEAD かを設定できるようになりました。(以前のバージョンは ACTIVE のみ)
リカバリ停止モード(自動リカバリ=OFFの際の DEAD 判定時)	自動リカバリ=OFF の際、以前のバージョンでは通信異常を検知すると DEAD となりましたが、ACTIVE/DEAD が選択可能となりました。自動リカバリを使用せず、ジョブ管理ツールなどでリトライ制御を行っている場合などに便利です。
uftpexec のリトライ回数	Start=socket 時、自ホストのサービス経由でデータ作成ジョブを起動する場合の再実行回数が指定できるようになりました。初期値は再実行なしです。

[6] OPENWAY FT 転送機能の改善 (owftconf.dat 初期値変更)

Owftconf.dat ファイルの初期値を Start=file から Start=socket に変更いたしました。

これにより、送信ファイル識別ステータス1以降の処理が自ホストのソケットサーバ経由で起動されるようになります。なお、インストール対象のフォルダにこのファイルが既に存在した場合は、その設定を引き継ぎます。

【7】OPENWAY FT 転送機能の改善(イベントログ)

イベントログの整理を実施し、同じ現象から2回エラーが出てしまうケースをなくしました。

【8】OPENWAY FT 転送機能の改善(u@ftpkik コマンド)

u@ftpkik コマンドの通信異常時の戻り値を統一し、公開しました。詳細は使用手引書をご確認ください。以前のバージョンでは、通信異常時の戻り値は非公開でご利用いただけません。

【9】OPENWAY FT 転送機能の改善(ログ)

- ・ ログファイルの先頭に、OPENWAY FT のバージョン、OS 種類を示すヘッダーログを出力するよう修正いたしました。これにより、ログ内容から実際に動作しているバージョン確認が容易になりました。
- ・ ファイル識別実行時、相手マシン側とホスト名設定に不整合がある場合、ワーニング出力を行うように修正いたしました。
- ・ uftpdwn が異常終了時にも [*** end ***]ログが出力されるようになりました。
- ・ uftpx、u@ftpsch の開始ログを追加いたしました。
- ・ ログに出力される電文種類を増やしました (RDY,BOOT 電文)。
- ・ 0125E の詳細エラーが出力されるよう修正いたしました。
- ・ Status(08→00)ログが出力されるように修正いたしました。
- ・ サービス (uftpsocd,uftp998) の開始、停止、一時停止、再開ログが出力されるようになりました。

【10】文字コード変換ユーティリティの改善

対ホストとのコード変換時、項目情報ファイルにて、パック 10 進数(符号有、無)指定時の動作について、オプションが追加されました。

パック10進数(符号有)・・・正の値を示す符号を通常[f]から[c]に変更

パック10進数(符号無)・・・符号を示す記号を[c]から[f]に変更

ゾーン10進数(符号有)・・・正の値を示す符号を通常[f]から[c]に変更

不具合修正

【1】OPENWAY FT 転送機能(多重度)

多重度制御において、Start=socket 選択時、相手ホストごとの多重度件数が少なくカウントされてしまう場合があった誤りを修正しました。

【2】SrcAdr.dat ファイル設定異常時のエラーメッセージ変更

SrcAdr.dat ファイルに誤った値が設定された際、以前のバージョンでは 302E が

出力されておりましたが、メッセージが不適切かつ異常停止しないため、292W,293W に変更しました。

【3】リカバリ機能引数エラーのコードが不適切

リカバリ機能実行時に引数指定を誤った場合、今までは 0105E を出力しておりエラーコードが不適切でした。0001E が出力されるように修正しました。

【4】文字コード変換ユーティリティ

- ・ 対ホストコード変換:レコード区切文字[-Ry=0d0a]を指定すると[0d0d0a]が出力される uconvhtu 使用時に、ホスト側固定長またはレコード変換を実施し、かつ、項目情報ファイルに無変換項目が指定されていない場合、[-Ry=0d0a]と指定すると実際の WS 側のレコード区切文字が[0d0d0a]になってしまう問題を修正しました。この現象は、上記条件に当てはまれば必ず起こるため、この設定を実際にご使用されていることはないかと思われませんが、ご留意ください。
- ・ 対ホストコード変換:1バイト特殊変換ファイルオープンエラーを検知しない
1バイト特殊変換ファイルと2バイト特殊変換ファイルを両方指定しているケースで、1バイト特殊変換ファイルのみオープンエラーの場合に、エラーを検知せず1バイト特殊変換ファイルを読み込まないまま、処理を実行してしまっていた不具合を修正した。
- ・ 対ホストコード変換:Windows 版における改行コードの扱いの修正
対ホストのコード変換では、WS 側レコード変換文字の指定を特に行わないと[-Ry]を指定したものと定義しております。ただし、特定のケースにおいては[-Ry=0d0a]と指定する必要がありました。そのため、[-Ry=0d0a]をご指定いただくよう使用手引書を修正いたしました。今後作成されるコード変換につきましては、レコード区切文字を[0d0a]とされたい場合、必ず[-Ry=0d0a]とご指定ください。既に作成済のコード変換で動作が変わることはございません。また、内部処理上も若干改良を加えております。